

平成30年度第1回契約監視委員会議事要旨

1. 日 時:平成30年9月27日(木)10:00~12:00
2. 場 所:JAXA東京事務所 地下階 B101、B102、B103 会議室
3. 出席者:横山委員長、大久保委員、長沢委員、田澤委員、三宅委員
(欠席:小林委員)
4. 審議概要:
 - (1)新委員の紹介及び委員長の互選
事務局から新委員紹介の後、委員長の互選が行われ、横山委員が委員長として決定された。
 - (2)平成29年度第4回契約監視委員会議事要旨及び平成29年度契約監視委員会活動のまとめの報告
事務局より「平成29年度第4回契約監視委員会議事要旨」及び「平成29年度契約監視委員会活動のまとめ」について報告があり、了承された。
また、前年度委員会において委員からあった意見への対応状況について資料に基づき報告があり、それに関してコメントがあれば後日出すこととされた。
 - (3)平成30年度調達等合理化計画の第1四半期実施状況の報告
調達部より第1四半期分の随意契約や一者応札・応募の契約実績と、前年度同期間との比較、分析結果について説明があった。
委員からは第1四半期は随意契約の割合が昨年度同期間と比較して下がったとのことであるが、年間を通して下がる見込みなのかとの質問があり、調達部から第1四半期は第4期中期計画の初年度ということもあって年間契約の競争件数が増えた結果であるが、今後は案件次第で変動するとの説明があった。
 - (4)平成30年度第1四半期に新規に締結した契約の点検
平成30年度第1四半期に新規に締結した随意契約及び一者応札・応募となった案件のうち、契約金額が大きいもの、複数の仕様書受領があったが一者応札・応募となったものを中心に点検を受けた。その結果、参加者確認公募の適用範囲等について次回委員会で報告することとなったが、特に問題となる契約はなかった。
(別紙のとおり)

(5)その他

次回の第2回契約監視委員会は、12月14日に開催することとした。

以上

第1回 平成30年9月27日

競争性のない随意契約 (②:参加者確認公募案件)			3件	①種子島宇宙センター射点系設備保全作業(FY30打上げ等対応)(その2) ②平成30年度 JEMに係るエレメントインテグレーション支援 ③平成30年度 地球観測データ解析研究業務支援
競争入札	一般競争	価格評価	3件	④平成30年度～平成32年度 空力技術研究ユニット 風洞運用業務 ⑤平成30～32年度調布航空宇宙センター・相模原キャンパス施設保全運用作業 ⑥深宇宙探査用地上局運用試験棟新築工事(H30) 及び深宇宙探査用地上局運用試験棟新築電気設備他1件工事(H30)

主な質疑等は以下のとおり。

① 種子島宇宙センター射点系設備保全作業(FY30打上げ等対応)(その2)

[競争性のない随意契約]

本件は基幹ロケットや衛星の射場において必要となる射点系設備の保全作業を実施するもので、打上げ作業と密接に関わる作業である。このため、保全作業を実施する上で機体の組立点検や制御に関する条件、手順等の業者保有の開示制限された技術情報を有している必要があり、「人工衛星、ロケット等の飛翔体、航空機等又はこれらに係る設備の製造設備、製造技術又は運用技術等を必要とする契約であって、当該設備又は技術を有する者が一に限定されるとき(契約事務実施要領第69条第1項(ウ))」を適用し、随意契約としたことの説明がJAXA担当者よりあった。

委員からは、打上げ作業と密接に関わる作業であるならロケット打上げサービスと契約を一体化するといったような検討を行ったことはあるのか、との質問があり、JAXA担当者より平成15年のロケット打上げサービスをJAXAから民間に移管する時点において、国レベルの整理で本保全作業はJAXAが引き続き実施するという仕分けがされたので検討は行っていない旨説明がなされた。

②平成30年度 JEMに係るエレメントインテグレーション支援

[競争性のない随意契約(参加者確認公募)]

本件は、JEM(「きぼう」)に搭載する実験装置に関し、JAXAが行う技術検討およびNASAとの技術調整等を支援するものであり、JAXAからシステム及び実験装置に係る技術情報を提供することで、本業務を実施することができる他業者が存在する可能性があることから参加者確認公募をしたうえで、「人工衛星、ロケット等の飛翔体、航空機等又はこれらに係る設備の製造設備、製造技術又は運用技術等を必要とする契約であって、当該設備又は技術を有する者が一に限定されるとき(契約事務実施要領第69条第1項(ウ))」を適用し、随意契約としたことの説明がJAXA担当者よりあった。

委員からは、随意契約を行う前の参加者確認公募はどのような場合に実施しているのか適用範囲等を示してほしいとの意見があり、次回委員会で報告することとされた。

③平成30年度 地球観測データ解析研究業務支援

[競争性のない随意契約]

本件は、地球の大気や表面の状態を観測する衛星(地球観測衛星)により得られたデータを用いて、アルゴリズム開発(データを加工するプログラム)、データの校正検証、利用・応用研究及び高次プロダクト(データを加工し、情報価値を高めたもの)の外部提供を行う際の業務支援を行うものである。本業務遂行にあたり、これまでの研究開発にかかる技術蓄積が必要であることから「継続的な研究開発に伴い締結する契約であって、過去の機構との契約において契約相手方に蓄積された技術等を活用するものであり、かつ当該相手方以外に実施させることが技術的、時間的又は経済的な理由により困難であるとき(契約事務実施要領第69条第1項(エ))」を適用し、随意契約としたことについてJAXA担当者より説明があった。

委員からは、随意契約を回避するために将来的に何か分けることはできないのかとの質問があり、JAXA担当者より分けられるものは分けているが、蓄積した技術は別の衛星ミッションに使うことができること、それを新規に一から作ろうとすると多くのお金と時間を要することから難しい旨の説明がなされた。

④平成30年度～平成32年度 空力技術研究ユニット 風洞運用業務

[一般競争・価格評価方式・一者応札]

本件は調布航空宇宙センターにある低速風洞をはじめとした7つの風洞等を運用するための業務をアウトソーシングしているものである。入札にあたり公告期間を長くとりなどの一者応札回避策をとったが、結果として一者応札となったものであ

る、一者応札となった要因としては、業務規模(人員数)が大きいため、受注側で請負体制を築くことができる者が限られたことが考察される旨の説明がJAXA担当者よりあった。

委員からは、実際に運用業務に従事する者が下請けも含め限定されていることから、一者応札の要因としては業者側の事情によるものとも考えられる。このため、どのような契約形態が最適か次回契約に向けて検討してほしいとの意見があった。

⑤平成30～32年度調布航空宇宙センター・相模原キャンパス施設保全運用作業

[一般競争・価格評価方式・一者応札]

本件は調布航空宇宙センター及び相模原キャンパスにおいて、電力、ガス、給排水設備の運転監視及び点検、巡視、修繕等を実施するものであり、平成28年度までは事業所ごとに契約していたものを一本化したものである。入札にあたり競争参加資格要件の緩和や現地説明会の開催などの一者応札回避策をとったが、結果として一者応札となったものである、一者応札となった要因としては必要な人員確保、業務履行体制の構築ができない等の業者側都合によるものが主たる要因であったとの説明がJAXA担当者よりあった。

委員からは調布と相模原の契約を一本化したことによる効果をしっかり定量的に評価して欲しいとの意見があり、JAXA 担当者より一本化は平成29年度からスタートしたばかりであるので、全体状況を把握した上で対処したいとの説明があった。

⑥深宇宙探査用地上局運用試験棟新築工事(H30)

深宇宙探査用地上局運用試験棟新築電気設備他1件工事(H30)

[一般競争・価格評価方式]

本件は臼田宇宙空間観測所の直径 64m 地上局の代替となる美笹深宇宙探査用地上局の整備を行うものであり、工事現場が山の中腹にあるという現場条件にかかわらず、入札においては各々3者の応札があった旨、説明があった。

委員からは、高落札率であったが予定価格を算出する際に、工事現場が山の中腹とか交通の便が悪いとかの特殊条件は積算に考慮してはいないのかとの質問があり、JAXA 担当者より現場は山の中腹ではあるが、現場までの道は整備されており運搬上の支障はないため、特に考慮していないとの説明があった。

また、運用試験棟新築工事における入札辞退者の辞退理由を次回委員会で報告することとされた。

以 上